

法人名	大阪外環状鉄道株式会社
作成(所管課)	都市整備部 交通戦略室 鉄道推進課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○鉄道施設を保有する第三種鉄道事業者として、第二種鉄道事業者であるJR西日本と連携し、おおさか東線の鉄道施設、設備の安全確保に取り組む

○建設費用として調達した地元自治体及び金融機関からの借入金について、JR西日本からの線路使用料を原資として、計画的に着実に返済していく

■ 大阪府の施策

- ・都市内交通の円滑化

基本方針

1 輸送の安全管理の徹底

鉄道線路を保有する第三種鉄道事業者として、運行主体である第二種鉄道事業者と連携し、全線（新大阪～久宝寺）における安全管理の徹底を図る。

2 適切な資金管理

おおさか東線整備にかかる借入金の返済を、計画に基づき着実に進める。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 鉄道施設の検査・工事の適正実施確認

- ・検査・工事の不備による事故防止
【0件(R2実績)→0件(R7)】

② 安全に対する意識の醸成

- ・運輸安全マネジメントの実践

③ 借入金の計画的返済

- ・返済額
【7.50億円(R2実績)→10.48億円(R7)】

④ 高架下の有効活用

- ・高架下貸付面積率

⑤ 事務処理の効率化と適正な人員配置

- ・一般管理費
【149,001千円(R2実績)→104,000千円(R7)】

○ 令和6年度の経営目標達成状況及び令和7年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R3～R7)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R7 目標値	最終年度 目標値	
① 鉄道施設の検査・工事の適正実施確認	検査・工事の不備による事故防止		件	50	0	0	0	0	50	0	0	検査・工事の不備による事故ゼロを目指す。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)												戦略目標達成のための活動事項
最重点とする理由、 経営上の位置付け	・当社は、大阪外環状線(おおさか東線)を整備するプロジェクトのため設立された会社である。(鉄道事業法に基づく建設・保有を行う第3種鉄道事業者。なお運行は第2種鉄道事業者であるJR西日本が行う上下分離方式。) ・おおさか東線整備事業の完遂が、当社に課された使命であり、H31年3月16日の全線開業後は、鉄道施設を保有する第3種鉄道事業者として、第2種鉄道事業者であるJR西日本と連携し、おおさか東線の鉄道施設、設備の安全確保に取り組むことが最重点目標となる。											・検査・工事の不備による事故を防止するためにも、経営トップ等が安全重点施策等の策定・実施に主体的に関与するとともに、引き続き、第2種鉄道事業者であるJR西日本とも密接に調整及び連携を図りながら鉄道の安全を最優先に事業を進めていく。
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	・限られた組織体制であることから、社長をはじめ取締役が先頭に立ち全社員で安全確保に取り組んでいく。 ・コスト縮減を念頭におきながら、安全の確保が図れるよう、組織体制については、固定化することなく、必要な人員が適切に配置できるよう弾力的な配置を行っていく。											
活動方針	・JR西日本との連携により、鉄道の安全の確保に努める。											

法人名	大阪外環状鉄道株式会社
-----	-------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R3～R7)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R7 目標値	最終年度 目標値		
② 安全に対する意識の醸成	運輸安全マネジメントの実践		項目	10	-	3	3	3	10	-	-	・安全管理を実施するため①高架下 工事の安全実施、②安全研修の実 施、③安全レビューの実施の3項目に 取り組む。	・左記項目を、安全施策として計画・実行し、実行状況に対する評価及び改善を行う「運輸安全マネジメント」の実践を通して安全に対する意識の醸成を図る。
Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)													
③ 借入金の計画的返済	返済額		億円	30	12.30	13.73	13.73	↓ 10.40	30	10.48	10.48	約定に基づく借入金の償還を、確実に実施する。	・金融機関からの借入金について、着実に計画通り返済を行うための、適切な資金管理を行う
④ 高架下の有効活用	高架下貸付面積率 (貸付中面積／貸付対象全面積)		%	7	(84.2)	88.0	90.7	94.0	7	-	-	高架下貸付収入の確保のため、貸付面積率の向上に取り組む 貸付対象全面積:64,000㎡ ・貸付中面積(R6実績値): 58,059㎡(90.7%) ・貸付中面積(R7目標値): 60,130㎡(94%)	・営業力の強化や認知度向上、さらに高架下の環境整備などの取り組みを行う。
⑤ 事務処理の効率化と適正な人員配置	一般管理費		千円	3	103,536	104,000	× 106,631	104,000	3	104,000	104,000	中期経営計画に定めたR7年度の目標値をR7年度の経営目標値として設定。	・組織については、整備事業完遂に伴い縮小を行った ・全体の収支改善を図りつつ、一般管理費について物件費のさらなる節減を進めるとともに、人件費については、派遣等、社員の人事サイクルを考慮して縮小に取り組む。

- 【凡例】
- ・☆はR7年度からの新規項目
 - ・×は目標値未達成
 - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 - ・（ ）内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 目標値未達成の要因について

法人名

大阪外環状鉄道株式会社

〔1〕

成果測定指標	単位	R6年度目標値	R6年度実績値	目標値との差
一般管理費	千円	104,000	106,631	2,631

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応
①	人件費の増加			部外委託費の見直し等により物件費の節減を図った一方で、JR西日本の人事異動に伴い現職派遣社員の負担金が増えたことや賃金改定等により人件費の総額が増加した。						全体の収支改善を図りつつ、一般管理費について物件費のさらなる節減を進めるとともに、人件費については、派遣等、社員の人事サイクルを考慮して縮小に取り組む。
	関連項目名	人件費	単位	百万円	R6当初想定値	81	R6実績値	84	差	3

法人名

大阪外環状鉄道株式会社

■ 令和6年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値	R7年度の目標値
運輸安全マネジメントの実践	項目	3	3

マイナス (現状維持) 目標の考え方	当社において、運輸の安全を確保するために実施(実践)する重要な事項として①高架下工事の安全実施、②安全研修の実施、③安全レビューの実施の3項目とし、この3項目を毎年堅実かつ継続的に実施(実践)することとしているため。 (参考)具体的な実践事項 ①高架下工事の安全実施:OSRが発注する高架下の工事等(フェンス設置等)での死亡事故等の重大事故ゼロの達成 ②安全研修の実施:鉄道の安全確保のための、全社員を対象とした安全研修の実施 ③安全レビューの実施:1年間の会社の安全管理に対する取り組み状況の振り返り・評価の実施
--------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値	R7年度の目標値
返済額	億円	13.73	10.40

マイナス (現状維持) 目標の考え方	当社の借入金の返済計画どおり(現中期計画にも記載) ※R7(2025)年の返済額の減額は、R6(2024)年に2004年度分の借入金を完済したため
--------------------------	--